

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 38  
(NPO法人 近畿水の塾)

////////////////////////////////////  
「庄下川リバーウォッチング」  
////////////////////////////////////

**【前回河川塾の内容】**

**第 35 回澤井河川塾 庄下川リバーウォッチング  
よみがえれ庄下川～川・人・街の風景～**

1. 日時 平成 15 年 11 月 22 日(土) 午後 1 時～5 時(小雨決行)
2. 集合 阪急神戸線「塚口駅」南改札口前 午後 1 時 時間厳守!
3. ルート 阪急塚口駅～南塚口町 8 丁目～松島排水機場～阪神尼崎駅  
約 10 キロ近く歩きます。
4. 案内人 近畿水の塾 安田博之(尼崎市土木局河港課河川担当)

近畿水の塾 庄下川フィールドワーク 記録 031122(土)13:00～

今回のフィールドワークは、尼崎を流れる庄下川(しょうげがわ)でした。

庄下川は尼崎を南流する一級河川。ほとんど平地を流れています。

当日は近畿水の塾 10 名が参加。阪急神戸線との交差点から河口までを歩きました(一部タクシー)。まずは三川合流点。ここは庄下川に東西から水路が合流します。合流点は川の上にエックス型の橋がかけられており、4 方向に川が見える楽しげな場所です。そこから少し川を下ると、犬走りを歩けるようになり、川が身近な快適な遊歩道となります。しばらく行くとおじさんが掃除をしていました。いつもごみを捨てているということですが、ごみを置くと苦情が出て、置き場に困っているそうです。ボランティアできれいにする活動を広げるためには、周囲の人と、行政の支援がもっと必要だななどと、よそ者の気楽さで言いたいことを言ってきました。いつも川掃除をしている「ねや川水辺クラブ」の郷さん、上田さんも興味深げに話をされていました。いかがでしたか。



(写真 01：三川合流点。淀川よりもかなり小さいです。少しづつ水もきれいになってきているようです)

(写真 02：快適な犬走り。沿川の桜の木々も良い感じです)



(写真 03：掃除のおじさんに話を聞きました。置き場に困っているとのこと)

(写真 04：井戸水の噴水です。近くの公園から引いています)



(写真 05：園田女子大です。2000年の川プレシンポの会場でした。紅葉がきれいです)

庄下川は周辺に公園が隣接しているところが多くあり、快適な感じがします。子ども達が寄ってきて、説明ができないことにもなりました。おじさんたちもたじたじです。



(写真 06：狭い犬走りに降りて遊ぶ子どもたち。元気です)

そこからしばらく下りていくと次第に川幅が広がってきます。鋼矢板が痛んでいるところもあり、修理にはお金がかかりそうです。かなり危険な感じもしますが、東京の目黒川はこの倍くらいの高さがあり、もっときたない川です。ヒューマンな感じはこの庄下川の方がまだ「まし」です。ゴミを取るためのネットもところどころあり、多くのごみが引っかかっていたいました。



(写真 07：鋼矢板の護岸です。)



(写真 08：参考：東京の目黒川です。矢板の高さは 10m くらいあり、危険な感じですよ)



(写真 09：ごみを取るフェンスです)

だんだん時間が足りなくなり、阪神尼崎駅周辺に到着したのは4時過ぎ。このあたりは、昔ヘドロの海でした。ヘドロから湧き出るガスの臭いで閉口した思い出があります。今はかなり水もきれいになり、照明や噴水も作られています。ただし最近は省エネで動いていないようです。



(写真 10：尼崎駅周辺です。「美装化」と呼ぶそうです)

アルカイクホールというオペラで知られたホールを過ぎ、駅まで続く巨大なデッキ(少しばかり予算が足りなくてホールまでは到着しなかったそうです。おやまあ)を通り、阪神尼崎駅からタクシーに分乗して兵庫県松島排水機場へ。ここが庄下川の終点です。兵庫県の15トンポンプ6台と、尼崎市の1トンポンプ4台があります。通常は市のポンプ1台で対応しているそうです。

兵庫県のポンプを動かすのはよほどのときです。雨はすごいということですね。



(写真 11：巨大デッキの終点です。ホールまでの数十メートルが予算不足でできなかつたようです。惜しい!?)

(写真 12：排水機場です。ポンプが並んでいます。これは市の1トンポンプです) だんだんあたりが暗くなり、東部下水処理場の屋上ピオトープを見学し、震災で大

きな被害を受けて復興している築地地区を通りぬけ、阪神尼崎北の商店街へ。やっと一息です。



(写真 13：東部下水処理場ビオトープです。管理は大変そうです)

昔いつも実行委員会で集まっていた飲み屋さんでざわざわとひとしきり話をして、今回も満足で帰路につきました。久保田としては、雨水利用で知られる上の島(かみのしま)北公園や、尼崎市役所の方が作った家庭用雨水利用施設のその後も見たかったのですが、これは後の楽しみにしたいと思います。安田さん、ありがとうございました。これも安田ご令室様のおかげと考えております。どうぞよろしくお伝えください。

しかし、安田さんにせっかく考えていただいた質問は、誰も答えることがなかったですね。これはもったいない気がしました。今からでも参加した皆さん、感想(いつものふりかえり)を一言事務局へ送ってください。よろしく願いいたします。

?わたしが気づいたのは：庄下川は、寝屋川より広く深く、目黒川より狭く浅い。

?わたしがおどろいたのは：水のきれいさ。昔に比べて段違いに良くなっている。

?わたしがうれしかったのは：ごみそうじのおじさんがいた。子どもが川と親しんでいた。

?わたしががっかりしたのは：犬のふんを踏んでしまった。しっばいしっばい。

?わたしが学んだのは：庄下川はかなりの費用をかけているが、当初にもっと準備しておけば、もう少し効率的に費用対効果も大きくできたのだろう。しかしかなり低いところに遊歩道があるのは快適だ。

?わたしにとって、必要だとわかったことは：実践経験を積んで、実効性のある活動と提案をしていきたい。

?その他考えたこと、書いておきたいこと：安田さんの準備はとてもまじめで良い感じですよ。ありがとうございました。あとは、市民にごみを捨てないように、日常の実践活動を続けるだけです。

では失礼いたします。

[文責：久保田 / 近畿水の塾]

## 【次回の予告】

### 第36回「澤井河川塾」

日時：12月17日(水) 19:00~22:00  
・・・毎月、第3水曜日の開催です！！

場所：センター（いつもの6F会議室）

内容：1.北桂川の流域見聞について（下村氏）  
2.「私の水辺大発表会」における、  
近畿水の塾版「水辺の評価方法」について（下村氏）  
3.農都ネット近況報告及び  
田んぼの楽校で収穫した餅米の披露（金下氏）

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp) )まで 12/16(火)締切

[担当：西河]

## 【マイリバー／川びと】

<マイリバー紹介>

加古川支流「ごかのい川」 足立崇博

僕にとってのマイリバーは、たくさんありますが、その中でも一番大切な川は記憶の中に残っている昔の「ごかのい川」です。

「ごかのい川」は、兵庫県の1級河川加古川の中流域にある農業用の小さな川でした。25年ほど前の当時は、川自体、主に泥と砂利と植物でできていて、深さも水際の地形も変化に富んでいました。たしか、水際の盛土の部分には生き物（ザリガニ等）がつくったと思われるたくさんの穴があいていて、川べりには、オギかヨシがよく茂っていました。生き物もたくさんいました。マブナ、ヘラブナ、コイ、ニゴイ、オイカワ、アユ、モロコ、ハス、カマツカ、ギギ、ウナギ、ナマズ、ライギョ、ドジョウ、モクズガニ、アメリカザリガニ、ヒキガエル、ヘビなどなど。たくさんの種類と数の生き物がそこに棲んでいました。

僕はこの川で、小学校の頃、毎日のように遊びました。魚とり、秘密の基地づくりなど、

大好きな冒険ができる場所でした。川遊びが僕のライフワークで、いつも靴とズボンをビシャビシャにして、母を困らせていました。僕は「ごかのい川」に魔法をかけられたように本当に毎日とっていいほど通い続けました。ほんとうに川が僕の宝物でした。

もちろん、危険もたくさんありました。大雨のあとのあふれんばかりに流れている水の勢いや渦を見るために覗きこみ、まっちゃんちの濁流に吸い込まれそうになったり、また魚とり中に岸から急な落ち込みに足を滑らせ、深みにはまりパニックたりもしました。今思うと一番危なかったのは、金色の小さな魚（なぜかそう見えた）を見つけ、それをつかまえようと追っかけて、いつもは近づかない深みに進み、足をとられておぼれそうになったこと。でも自然はいつも僕に逃げ道を用意してくれていて、なんだかんだいいながらいつも笑って家に帰らせてくれました。

また、川からたくさんのものをプレゼントされました。特に思い出すのは、田植えの時期に川の水がほとんどなくなり、川に無数のプールができる時期です。この時ばかりは、たくさんの子供たちが、プール状のたまりに入り、魚をとりまくりました。とんでもないほどの魚の数と種類に、子供ながらに驚かされ、この小さな川でもこんなにたくさんの生き物を育てているだなと実感し、その自然のふところの深さにただ感心するばかりでした。

「ごかのい川」は、自然の怖さと恵みの両方を感じさせてくれる川でした。今の自分の内面を育ててくれた、大切な川でした。たぶん、今の自然観や死生観など、いろいろな価値観はこの川で生まれたのだと思います。

しかし、そんな宝物の川も、なくなってしまうのは一瞬でした。僕が小学校5年生ぐらいの頃、河川改修が進み、僕が遊んでいた場所は、すべてコンクリートの三面張りになってしまいました。たくさんいた生き物もいなくなり、魚の種類は、フナかニゴイだけになりました。僕の秘密の基地もなくなり、楽しい僕の川がただの水路になってしまいました。

あと言い忘れましたが、「ごかのい川」には、親に怒られたときや気に入らないことがあったときも、一人で行ってました。そんなときは、ただ、川に石をなげるとか、ただ、眺めているだけで気持ちが晴れていたような気がします。

今、僕の川とのつきあいは、カヌーや沢登りなど遊びを通してなんとか続いています。まだ日本にはいろんないい川（僕にとって）が残っていると思っています。そんないい川で自分自身がずっと遊び続けたいと思っています。正直にいつてしまうと、ただそれだけです。

僕の沢登りの師匠がよく口にする言葉で『天は自らを助くるものを助く。』という言葉があります。川も自然も人生においても、この言葉があてはまるような気がしています。

あっ、それから、もう一つ本流加古川の思い出で、ある夏の昼下がりに、ヨシ原を分け入ってでた川辺で、自分ぐらいの大きさの犬の白骨死体と出会いました。一つも骨が崩れることなく、完成された自然物として、白く輝いて、そこに“在り”ました。とても美しく思いました。おそらく、川に流されて、たまたまその岸辺にたどり着き、自然に浄化していったのでしょう。今から思うと当時の加古川もまだ自然の川として残っていたのだと思

います。犬の死体を運び流れつかせる空間がそこにあり、ゆっくりと自然の中で浄化する時間がそこにあったのだと思います。それが本当の自然なのかなと、今この文章を書きながらしみじみ思い出しています。

長々とすみません。次は中山香代子さんをお願いしようと思います。

## 【川の情報ボックス】

### イベント報告

< 桂川「流域見聞」 >

日 時：11月9日(日) 10:00~16:00

場 所：黒田集落基幹センター 他

内 容： 現地見学 桂川上流域の京北町黒田地区を訪ね、  
地域のなりわいと水との関わりとその変容を、  
現地を実見し、地元の方と語り合います。

基調講演 新川達郎同志社大学教授のお話

ディスカッション 全員で桂川のこれまでとこれからを考えます。

主 催：桂川流域ネットワーク事業実行委員会・京都府

「流域見聞」

京北町、上桂川上流，上黒田地区を訪問して

031109 福廣勝介

何故に、こんなに、好待遇なのだろう？

朝8時と、早いとは言うものの、京都駅に大型バスが迎えに来てくれていて、事務局が丁寧な受付をしてくれて(もっとも、なんとなく様子の判っていた僕は受付をせずに、バスに直接乗込んで、却って待たしてしまったが) 帰りも送ってくれるという。しかも、片道2時間の交通が、無料。

車中のガイドも、神田さんの、多すぎもせず、不足も無い、適量のガイドで。

上黒田に着くと早速の、現地人が待ち受けていてくれて、現地案内を頂く。それぞれの場所でふさわしい人に、案内役が代わる。午前中いっぱい、数ヶ所。

折りしも、字の人達の産業祭りのような「ふれあい祭り」が催されている。今回の会の唯一の有料物「お弁当」(予価¥800は¥350で、きのこの炊き込みご飯)に、

かす汁が無料で振舞われている。

残念！僕は、粕が苦手。絞り水でないと。そして、参加資料に付いている抽選券。僕らは何の負担もしていないのに、厚かましく、札を引いてみると、4等。景品は“2Lペットボトルに入れられた、今年の新米、みんなそれぞれに生産者のラベルが貼られていた。僕には「内田博」さん、コシヒカリ！。全員空籤なし。なんとHさんは5kg入りを引き当てた。その重み、帰りの飲み屋、立ち寄りにも、大切そうに、小脇に引き寄せられていたのが印象的だった。

いや、そして、肝心の午後の、車座座談会。村の木造、体育館の床におザブをじかに敷いての会である。

勿論、これらの好待遇は、事務局（我がメンバーで言えば、澤井さんとその教室、下村君とその教室の皆さん）の、1年かけて来た今までの交流と信頼の上に築かれた物であるが。

以下にその座談会での僕のメモを転記しよう。

- \* 普段、僕らは、下流を向いて立っている。
- \* 上流の大きさ、美しさ、そして何よりも、つましさ。
- \* 空中地下の循環、先進国更新国の循環でなく、上流下流の循環。
- \* 上流下流の連携とは下流の都合で、安易に下流の論理でやってしまうと、交流でなくエントロピーの増大の「混濁」。本当に互いに敬意を、持っているかが問われている。
- \* 「心優しき人は都会の流儀に暮らせない」
- \* 上流の善意に甘えている。
- \* 名張も俺の子供の頃はここみたいだったなあ！
- \* 流域連携が必要なのは、全国共通。全国共通にしてしまった原因を問わねば。
- \* スロー。今の都会の時間の概念は「スピード」だけ。「長期」は無い。林業の時間を見る。
- \* 昔は木を切った分だけ植えた。
- \* ここの林業は、最上流のここから筏で流して、消費地京都保津川まで、3日。「都市近郊林業」、あるいは「産直林業」と呼んでいいかも知れない。
- \* 狸がおってさの「せんば山」のせんばとは、薪のことだってさ。

以上

## 【事務局より】

前回「マイリバー紹介」で『足立崇弘さん』の名前表記が誤っておりました。  
正しくは『足立崇博さん』です。お詫びして訂正いたします。

\*\*\*\*\*

N P O 法人近畿水の塾 事務局

住所 〒594-1151

大阪府和泉市唐国町 1-19-95-201 佐藤方

& Fax 0725-53-5325

E-mail [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp)

HomePage <http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>

\*\*\*\*\*